2025国際教養科 NEWS　7月 ④

6月から7月にかけて4名の留学生を受け入れ 梶の葉祭や日本の高校の授業を経験

今年度は過去最高の６名の留学生を国際教養科に受け入れます。今回は６月から７月にかけて受け入れた留学生を来た順番で紹介します。

まずは６月９日から７月７日の１カ月、荻原桐さんが２年国際教養科にやってきました。桐さんは自己紹介で５か国語を話せることを披露し、生徒たちからは羨望のまなざしで見られていました。桐さんは日本に生まれ、中２の時に家族とオランダへ、そしてアメリカの高校を選び、今は一人でアメリカに暮らしています。

荻原　桐　さん（中央）

感想）初めてであり最後になる合唱コンクールや文化祭では、みんなと想いを一つにして協力するという当たり前のようでそうでないことを経験し、とても楽しかったし嬉しかったです。日本でしか体験できない高校生活を、素晴らしいクラスの仲間と先生方と過ごせたことは私にとってかけがえのない思い出となりました。本当に感謝しています。

次に６月 30　日から７月 18 日までの３週間、ローマン葉月さんがドイツから１年国際教養科にやってきました。葉月さんも３か国語話せます。ドイツ生まれドイツ育ちですが、お母さんが日本の方で日本語も話せます。授業の理解は苦労したようですが、感想文を一生懸命日本語で書いてくれました。

ローマン葉月さん（赤い服）

感想）初めての留学で最初は少し不安もありましたが、クラスのみんながオープンで簡単に友達を作ることが出来ました。特にクラス全員で文化祭の準備をしたおかげで、仲良くなる機会が多く楽しい時間を過ごすことができました。みんなで作った「大きいジェンガ」も中夜際で盛り上がったことも後夜祭の鈴交換をみんなで応援したことも写真を撮ったことも絶対に忘れられない人生に 1 度きりの思い出となりました。授業の理解は苦労しましたが、長野西高校での３週間は最高でした。本当にありがとうございました。

ケイレブ・ユウ君は２年前の７月にも１年国際教養科（現３－６）に来て文化祭を経験しており、昨年も１日だけでしたが遊びに来てくれました。今回は文化祭期間のみの受け入れとなりましたが、３回目ということですぐに打ち解け久しぶりに再会したクラスメイトと思い切り文化祭を楽しんでアメリカに帰国しました。

Caleb You 君（中央）→

文化祭明け直後７月９日から７月 25 日までの３週間、ベルギーから宮尾珠奈さんが１年国際教養科にやってきました。日本人学校の補習校に通っていたため、日本語のレベルの高さに驚かされました。

宮尾珠奈さん（右）

感想）最初は不安でしたが、みんなが親切で笑顔で話しかけてくれてすぐに安心できました。みんなでお弁当を食べながら他愛のない話をして笑い合い、「こういうのが高校生活の醍醐味なのだな」と感じました。友達とのちょっとしたやりとりが宝物のように感じました。音楽の時間に好きな歌をみんなと歌えたのも楽しかったです。この体験を通して、「人とのつながりがあれば不安も乗り越えられる」「どんなに短い時間でもその中で出会った人たちが自分にとって大切な存在になることがある」ということを改めて実感しました。長野西高校で出会ったすべての人達に感謝しています。ありがとうございました。

どの留学生も西校で「かけがえのない」「日本でしか経験できない」高校生活を楽しんで帰国してくれたように感じます。同時に国際教養科の生徒は、留学生との交流を通じて、刺激を受けたり、異文化を学んだり、自然に国際感覚が身につきます。外へ出ていくこともいいですが、日本にいながら様々な国の文化や考え方、価値観に触れる良い機会となったと思います。